

策定委員会用

第2次屋久島町観光基本計画 概要版（案）

令和8年1月

屋久島町

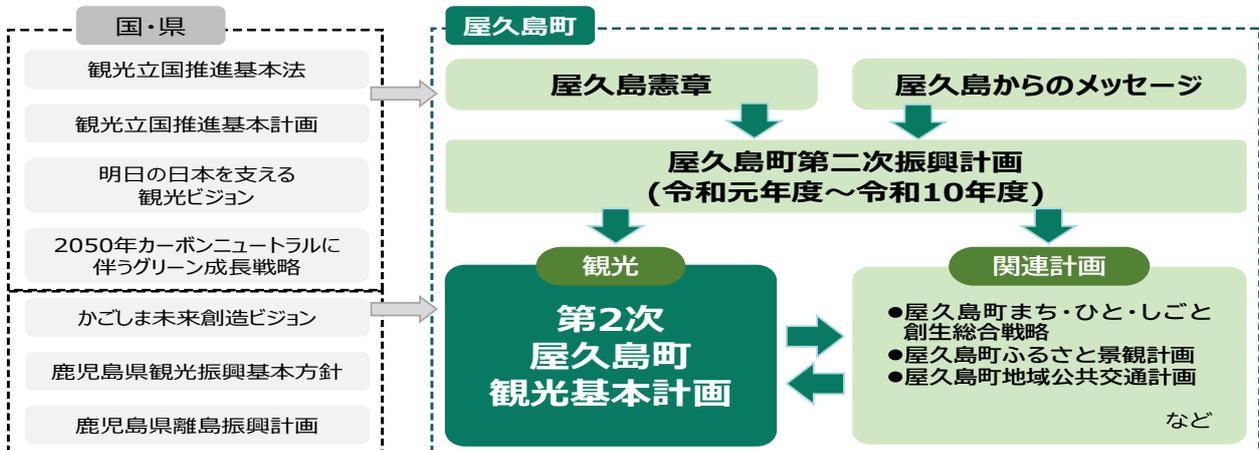
01 計画策定の背景と目的

本町の観光振興推進のためには、観光に携わる人々が一体となり、おもてなしの心を持って取り組むことが重要です。そして、観光消費が多くの産業や町民生活の活性化につながっていることに対する理解を深め、幅広い産業や町民の協力を得ながら観光立町を実現する必要があります。

第2次屋久島町観光基本計画は、前計画の成果と課題を継承・発展させながら、屋久島町第二次振興計画との整合、社会情勢の変化や本町を取り巻く課題を踏まえ、今後10年間の観光振興に資する施策を戦略的かつ計画的に進めていくための基本となる考え方や施策の方向、計画目標を示す指針として策定するものです。

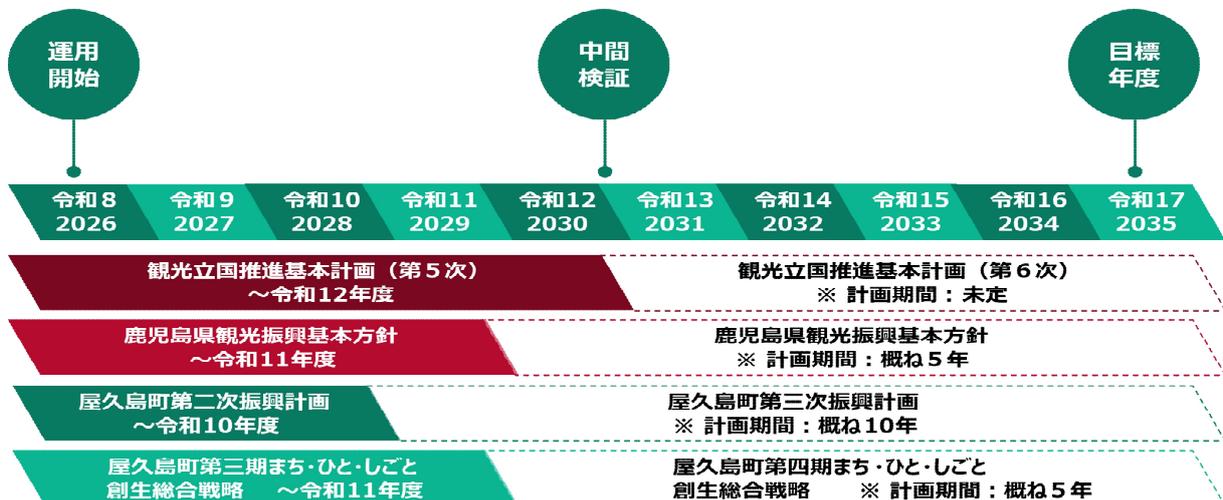
02 計画の位置付け

本計画は、令和元年度に策定した「屋久島町第二次振興計画」を上位計画とした本町の観光分野における計画として策定します。



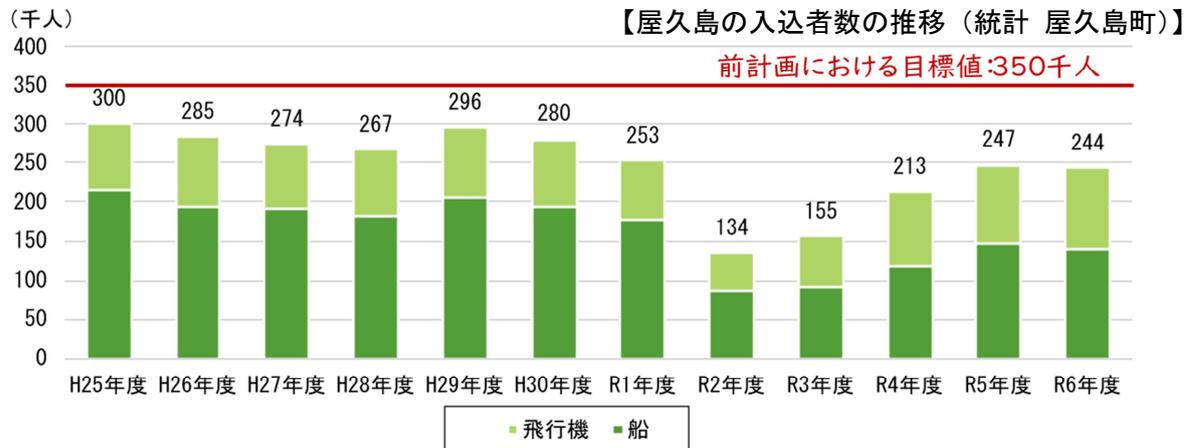
03 計画の期間

本計画の期間は、令和8年度から令和17年度までの10年間とします。ただし、近年の観光を取り巻く状況の変化の著しさを鑑み、5年後に中間の検証を行い、必要に応じた見直しを行います。

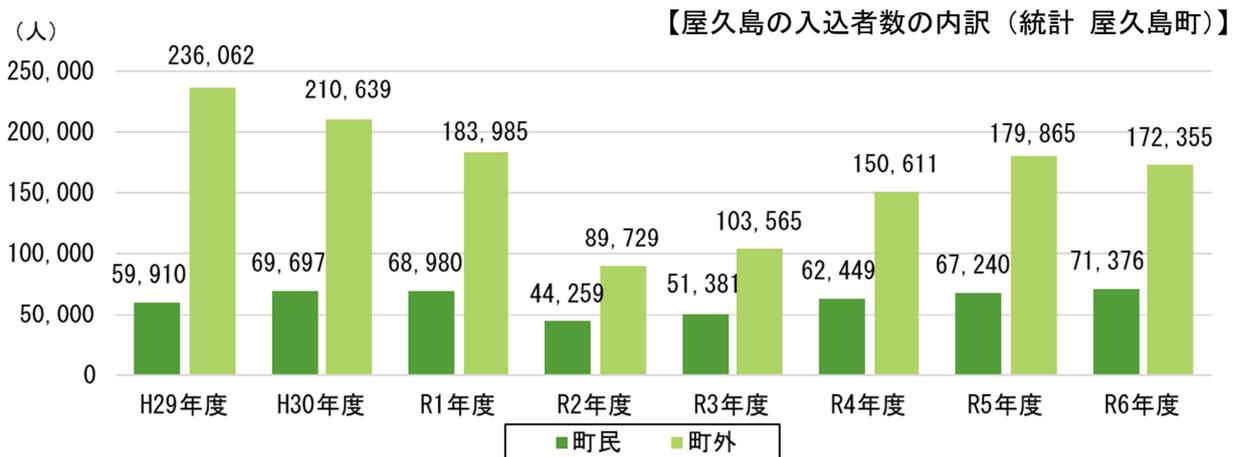


04 主な現況

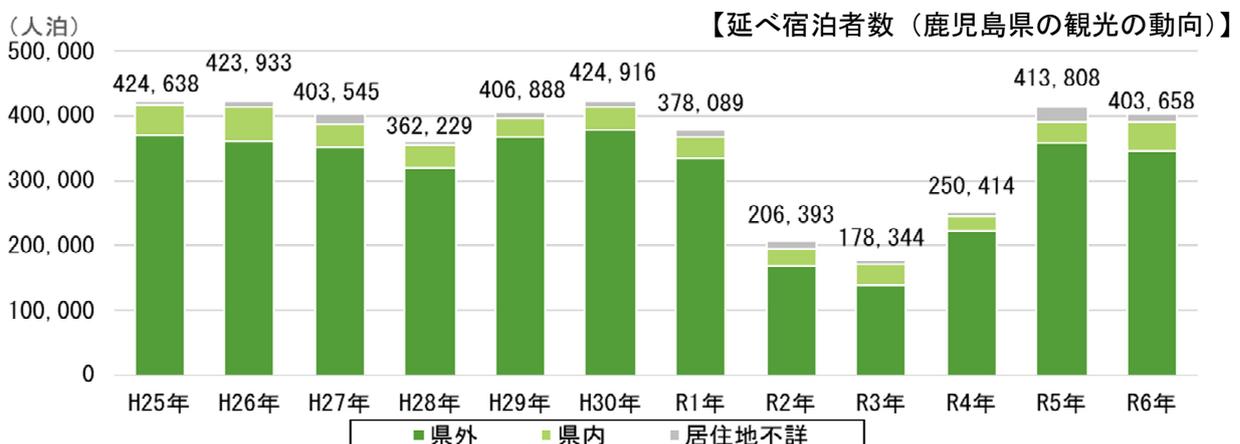
コロナ感染症の影響によって大きく減少した後、回復傾向にあるものの、令和6年度は約244千人と目標値は非達成となっています。



区分が可能となった平成29年度が町外者の入込者数が最も多く、コロナ禍による激減を経て回復傾向にあります。



令和2年以降、県外の来訪者が大幅に減少しましたが、令和5年は県外の来訪者の回復により、41万人泊を超えました。令和6年はやや減少しており、回復傾向にあるものの変動が見られます。



05 屋久島町の観光のポイント

① 自然資源の保全と活用並びに安全性の確保

自然資源の保全に配慮した活用促進のために、町民や事業者の自然に対する意識醸成を図っていく必要があります。さらに、口永良部島の火山活動、年間平均降水量の多さ等もあり、安全面への対応が必要不可欠です。

② 利便性の高い観光地域づくり

2033年に予定されている屋久島空港の滑走路延長により、観光客の増加やインバウンド等の客層が広がると予想されます。観光客の受入態勢の拡充にあたって、島内交通手段の整備、キャッシュレスや多言語対応、情報の一元化等の利便性の向上が必要です。

③ 観光客数の適正化

町民や事業者だけでなく、屋久島町に関わる全ての人々が屋久島・口永良部島を次代につないでいく責務があります。町民の暮らしや自然環境への影響も鑑みて、多角的な視点から適正な観光客数を定めるとともに、屋久島町の自然や文化を理解する関係人口を増やし、地域への貢献を意識して自発的に関わる方を呼び込むことが必要です。

④ 観光消費額の向上

山岳部がメインとされる2泊3日の行程が最も多くなっていることから、各種アクティビティの多様化とブラッシュアップによる宿泊日数の長期化、他産業との連携を深めた観光振興を図ることで観光消費額の向上による経済効果を地域の各産業へと波及させ、島とともに暮らす人々の生活がより豊かになるような施策が必要です。

⑤ 島内体制の構築

各関連団体間の役割分担の明確化、連携強化により、地域一体となった観光振興を進めることが必要です。さらに、事業者の人材不足や高齢化への対応策を検討し、観光客の受入態勢を整える必要があります。

06 屋久島町観光の基本理念

世界自然遺産である屋久島の価値を次世代へ継承するため、エコツーリズムによる観光立町の理念を堅持します。本町はユネスコエコパークや屋久島憲章に基づき、自然保護と人々の生活の両立を推進してきました。今後は、これまでのエコツーリズムを継承しながら、世界的潮流であるサステナブル（持続可能）、さらにはリジェネラティブ（再生・回復）な観光の考え方を取り入れ、訪れることで地域や自然がより良くなる、持続可能で再生可能な観光の実現を目指します。

世界自然遺産『屋久島』の価値創造

条文

1. わたくしたちは、島づくりの指標として、いつでもどこでもおいしい水が飲め、人々が感動を得られるような、水環境の保全と創造につとめ、そのことによって屋久島の価値を問いつづけます。
2. わたくしたちは、自然とのかかわりかたを身につけた子供たちが、夢と希望を抱き世界の子供たちにとって憧れであるような豊かな地域社会をつくります。
3. わたくしたちは、歴史と伝統を大切に、自然資源と環境の恵みを活かし、その価値を損なうことのない、持続できる島づくりを進めます。
4. わたくしたちは、自然と人間が共生する豊かで個性的な情報を提供し、全世界の人々と交流を深めます。

07 将来像

屋久島町は林業隆盛期に地域資源の「消費」が進むも、町民の努力と自然への敬意から起こった運動により原生林保全へと転換し、世界自然遺産登録を実現しました。岳参りに象徴される自然への畏敬や、町民アンケートに見られる「再生型」への意識から、町民が地域特性や歴史を理解して誇りを持ち続けるとともに、来訪者と相互に尊重・理解し合うことで、双方が幸福を感じられる魅力的な観光まちづくりを実現します。

町に関わる全ての人で作りあげる
世界に誇る再生型観光まちづくりの実現

08 基本方針

基本方針 1：持続可能な観光地域づくり

観光による「稼ぎ」を各産業へ還元し、自然環境の保全・再生へ再投資する好循環を形成します。経済・環境・社会文化の三要素がそれぞれ持続・再生し、相互に作用することで、将来にわたり魅力ある観光地域づくりを実践します。

基本方針 2：戦略的な観光誘客

インバウンドは本質的な価値を求める来訪者をターゲットとし、国内は「島いところ」のつながりによる地域コミュニティとの交流や環境保全活動への自発的な関与を促進して関係人口を創出します。教育旅行や旅を通じた健康増進等、多様なコンテンツで「再生」と「責任」ある観光を推進します。

基本方針 3：しくみづくり

交通・情報環境の整備により来訪者の利便性を向上させ、人材育成とネットワーク強化で観光地域づくりを支えます。観光 DX で人流把握と資源管理を最適化し、戦略的情報発信と危機管理体制の強化により、持続的な観光を支える基盤を確立します。

09 施策体系

基本理念	将来像	基本方針	基本施策	
世界自然遺産『屋久島』の価値創造	町に関わる全ての人で作りあげる世界に誇る再生型観光まちづくりの実現	基本方針1 持続可能な観光地域づくり	環境	<ol style="list-style-type: none"> 誇り高い自然資源の保全・再生 環境に配慮した観光地整備と景観保全の推進 循環と再生の仕組みづくり 里海の保全と海辺資源の持続的活用の推進 自然影響モニタリングとキャパシティ管理¹ 公共交通・移動手段のグリーン化
			社会文化	<ol style="list-style-type: none"> 文化・歴史資源を活かした観光コンテンツの創出 地域住民と観光客が関わる交流の場の創出 口永良部島の文化・自然資源の活用
			経済	<ol style="list-style-type: none"> 食の魅力発信 高付加価値商品の開発 地域内経済循環の促進
		基本方針2 戦略的な観光誘客	国外	<ol style="list-style-type: none"> 国際的価値のブランド確立 滞在型・体験型プログラムの充実 高付加価値旅行への対応 多言語対応等の拡充
			国内	<ol style="list-style-type: none"> 関係人口の創出と共創の促進 教育旅行や企業研修旅行、国際会議の受入促進
			特定	<ol style="list-style-type: none"> レスポンスブル・ツーリズム²の浸透
		基本方針3 しくみづくり	<ol style="list-style-type: none"> 快適性の向上 観光まちづくり人材の育成・確保・強化 観光DXの推進 情報発信の強化 観光危機管理³の推進 	

¹ 自然環境・社会・インフラなどが受入可能な適正な訪問者数や利用状況を把握・調整する考え方。

² 訪問者・受入側双方にとって持続可能で良好な関係を築こうとする観光の在り方。

³ 観光に影響を及ぼす危機に備え、被害の最小化と早期回復を図るための体制づくりや対応方針。

10 目標指標

(1) 将来像に対応する指標 (KGI)

指標名	現状値 (2024 年度)	目標値 (2035 年度)	計測方法
観光施策に関する町民満足度	22.9%	50.0%	「町民アンケート」より 各種取組への満足度

(2) 基本方針に対応する指標 (KPI)

基本方針 1：観光地域づくりに対応する指標

① 個人旅行者の町内消費額単価

現状値 (2024 年度)	目標値 (2035 年度)	計測方法
72,993 円	90,000 円	「屋久島町観光に関するアンケート調査」 より消費額単価

② 島の知名度やブランド力が向上したと感じる町民割合

現状値 (2024 年度)	目標値 (2035 年度)	計測方法
37.1%	50.0%	「町民アンケート」より観光振興による 地域への好影響で当該選択肢回答者割合

③ 自然景観や環境の保全・整備に関する施策の満足度

現状値 (2024 年度)	目標値 (2035 年度)	計測方法
33.0%	50.0%	「町民アンケート」より該当施策への満足度

基本方針 2：観光誘客に対応する指標

① 屋久島への町外入込者数

現状値 (2024 年度)	目標値 (2035 年度)	計測方法
172,355 人	230,000 人	「統計 屋久島町」より町外入込者数

② 屋久島への訪問回数 (2 回目以上)

現状値 (2024 年度)	目標値 (2035 年度)	計測方法
19.9%	40.0%	「屋久島町観光に関するアンケート調査」 より訪問回数

③ 屋久島地区延べ宿泊者数

現状値 (2024 年暦年)	目標値 (2035 年暦年)	計測方法
403,658 人泊	690,000 人泊	「鹿児島県観光統計」より 屋久島地区延べ宿泊者数

11 進行管理（計画の推進に向けて）

本計画の確実な実行に向けては、目標指標として掲げる目標値について、それぞれの取組がどのように寄与しているのかを定期的な調査等を通じて確認します。そのため、年に1回程度、屋久島町観光推進会議を開催して計画の見直しを柔軟に行う等、PDCA サイクルを構築します。



第2次屋久島町観光基本計画 概要版
令和8年3月

鹿児島県屋久島町 観光まちづくり課
〒891-4292 鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田 849 番地 20
TEL 0997-43-5900 / FAX 0997-43-5905



↑ 計画書本編はこちらから
ご覧になれます。